



みどり市バドミントン協会

シャトルコック

発行人
小室 泰博
編集人
周東乃武満
新聞部



桐生市在住 男性 (68 歳)

加を守ろうと予定を組んでいたおかげで全回参加できました。いろいろな方が参加しており、とても若い方から私と同年代の方まで、ラケットを握るのほとんど初めての方から、私のように長く手を染めてはいるものの初心者状態のままの者まで、いろいろな方々が幅広く参加してとてもたても楽しかったです。最後の 2 回はダブルスの試合形式で、いろいろなレベルの人たちが混在してとても面白かったです。最終回は「終了証」も頂き、ご指導して頂いた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は 68 歳になる、すでにおじいちゃんともいえる者です。実際にバドミントンを始めたのは随分と前のことなのですが、自営業ですのの仕事の都合で長続きがせず、いつも初心者状態でした。そんな折、みどり市でバドミントンの初心者講習会が開かれるので一緒にどうですか、という誘いがあり、考えてみればきちんと講習会を受けたことは無かったことに思い当たりました。一度は講習会を受けてみるのも面白そうだな、ということで受講させて頂きました。本講習会では毎回参



再開

バドミントン 初心者講習会を受講して

令和 4 年度 クラブ活動状況

クラブ名	練習曜日	練習会場	練習時間
体協クラブ	月・木	笠懸小体育館	午後 8 時～10 時
パルレ	月	笠懸小体育館	午後 8 時～10 時
東小クラブ	月・木	笠懸南中体育館	午後 8 時～10 時
ノースシャトル	水	笠懸北小体育館	午後 8 時～10 時
ハローシャトルズ	水	笠懸小体育館	午後 8 時～10 時
サンクラブ	木	笠懸東小体育館	午後 8 時～10 時
ミナミクラブ	金	笠懸東小体育館	午後 8 時～10 時
コパン	水	グリーンアリーナ	午後 7 時～9 時
北小クラブ	土	笠懸北小体育館	午後 8 時～10 時
ジュニアクラブ	土	笠懸南中体育館	午後 6 時半～8 時半



令和 4 年度 全国中学校体育大会
第 52 回全国中学校
バドミントン大会
会場 青森県武道館
会期 8 月 19 日 (金) ~ 22 日 (月)

8 月 19 日 (金) ~ 22 日 (月)、青森県弘前市で行われた、第 52 回全国中学校バドミントン大会に参加してきました。弘前市は、試合の前日に、群馬から父の運転する車で移動しましたが、およそ 7 時間半もかかり、とても大変でした。

トーナメントの 1 回戦の相手は、山口県の柳井中学校の阿波さん (1 学年下) の全国チャンピオンでした。特に緊張はしていませんでしたが、思うように身体が動かず、1 ゲーム目はほとんど得点を取ることができませんでした。

2 ゲーム目は気持ち切りかえて、しっかりとラリーする意識を持ち、コートに入り、ふだんなら決まるようなショット

第 52 回全国中学校 バドミントン大会

に対して相手はしっかりと守備をしてきたので、つい決め急いでしまい、チャンスでミスを重ねてしまい、結果、0-2 で簡単に負けてしまいました。思うような試合がまったくできず、とても残念でした。

全中で勝ち上がっていた選手のほとんどが、強豪校に在籍するジュニアナショナルの選手でした。今回、全中に参加してみて、自分とそのような選手の間には、大会へ向かう準備や意気込みなどに大きな違いがあるのだということがわかりました。

各種大会結果

※コロナの影響で昨年度は全く大会を開催することができず、2年ぶりの開催となりましたが、今年に入ってから、例年2月におこなわれていた、団体戦の近隣対抗戦として最近では、7月に行われる予定だった市の記念大会も中止となり、結局前期の新聞に掲載できたのは2大会のみとなりました。さらに、結果をご覧いただいておりますの通り、どちらの大会も参加制限等で、参加者数が激減し、従来の試合形式で行えない部分もあり、報告できる記事の量もかなり減りました。今後ともまいりつつかの大会が開催される予定です。逆に通常より上位入賞のチャンスはふえるかと思えますので、協会員(各クラブの部員)で盛り上げていただければと思います。	
第17回みどり市バドミントン選手権大会 (令和4年4月10日) (すべてのチームによる予選リーグでのクラス分け)	第17回みどり市レクリエーション大会 (令和4・6・5) 14チームの総当たり戦による(同率の場合は得失点差による)
☆優勝 トーナメント A 優 勝 (高見沢 峻 (SUBARU) 佐竹 慧梧 (SUBARU)	☆優勝 尚史 (白猫羽球団) 斎藤 綾希 (白猫羽球団)
準優勝 藤原 優作 (SUBARU) 目黒 連 (SUBARU)	3 位 (河内 良太 (ミナミ) 中野 龍祐 (ミナミ)
3 位 (多胡 彰宏 (ミナミ) 宮内 綾乃 (ミナミ)	☆決勝 トーナメント B 優 勝 (山谷 将弘 (ミナミ) 川島 匠 (ミナミ)
準優勝 豊田部陽菜 高野 舞	3 位 (宇津野 貴 (ミナミ) 吉澤 俊雄 (ミナミ)
3 位 (矢嶋 柚葵 (笠懸中) 高石 青来 (笠懸中)	☆決勝 トーナメント C 優 勝 (上武 柊桔 (Feel) 神山 海斗 (Feel)
準優勝 豊村 陵 (二羽一笑) 見城 勇輔 (二羽一笑)	3 位 (高石 忍 (ミナミクラブ) 高石 結衣 (笠懸中)
3 位 (平松 咲絢 (笠懸中) 石内 沙菜 (笠懸中)	☆決勝 トーナメント D 優 勝 (中川 花菜 斎藤 玲奈)
3 位 (大澤 輝 (二羽一笑) 高木 そら (二羽一笑)	準優勝 高木 優季 (東小クラブ) 新島 弘美 (東小クラブ)
☆決勝 トーナメント D 優 勝 (中川 花菜 斎藤 玲奈)	3 位 (小澤亜由乃 (笠懸中) 高石 結衣 (笠懸中)
準優勝 豊村 陵 (二羽一笑) 見城 勇輔 (二羽一笑)	3 位 (高木 優季 (東小クラブ) 新島 弘美 (東小クラブ)
3 位 (平松 咲絢 (笠懸中) 石内 沙菜 (笠懸中)	☆Bクラス結果 優 勝 (河内 良太 (ミナミクラブ) 武井 陽香 (ミナミクラブ)
3 位 (大澤 輝 (二羽一笑) 高木 そら (二羽一笑)	準優勝 多胡 彰宏 (ミナミクラブ) 宮内 綾乃 (ミナミクラブ)
☆決勝 トーナメント D 優 勝 (中川 花菜 斎藤 玲奈)	第3位 (10勝3敗) (奈良 裕史 (体協クラブ) 櫻井 翔子 (ミナミクラブ)
準優勝 高木 優季 (東小クラブ) 新島 弘美 (東小クラブ)	第4位 (10勝3敗) (高石 忍 (ミナミクラブ) 高石 結衣 (笠懸中)
3 位 (小澤亜由乃 (笠懸中) 高石 結衣 (笠懸中)	第5位 (10勝3敗) (櫻井 隆広 (ミナミクラブ) 篠崎 柚芽乃 (ミナミクラブ)



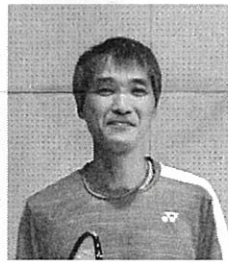
2022・23年度 役員名簿

役職	氏名	所属
顧問・相談役	会長	小室 泰博 体協クラブ
	副会長	間所 克己 体協クラブ
	相談役	奥澤 恒二 体協クラブ
	監事	山口 賢二 体協クラブ
		高田 泰司 体協クラブ
顧問・相談役	代表顧問	豊島 静男 -
	顧問	岩崎 盛和 -
	理事長	石田 晃一 体協クラブ
	総務部長	久保田 有ニ ノースシャトル
	総務副部長	木村 幸代 コパン
顧問・相談役	競技部長	高石 忍 ミナミクラブ
	競技副部長	奈良 裕史 体協クラブ
	普及部長	高瀬 聡 コパン
	普及副部長	江泉 浩充 体協クラブ
	新聞部長	周東 乃武満 ハローシャトルズ
顧問・相談役	新聞副部長	小川 進二 パルレ
	ジュニア部部长	岡村 知輝 笠懸ジュニア
	ジュニア部副部長	佐藤 保 笠懸ジュニア
	総務部	峯岸 靖子 笠懸東小クラブ
	総務部	楠木 千絵 笠懸北小クラブ
理事	総務部	田村 吉孝 パルレ
	競技部	櫻井 隆広 ミナミクラブ
	競技部	柳沼 竜二 サンクラブ
	競技部	高石 亮 サンクラブ
	普及部	吉田 道明 笠懸東小クラブ
推薦理事	新聞部	大堀 英子 ハローシャトルズ
	新聞部	松本 俊一 笠懸東小クラブ
	新聞部	岩崎 広行 夢☆FMSK
	新聞部	荻野 大輔 夢☆FMSK
	ジュニア部	山根 一廣 笠懸ジュニア
推薦理事	ジュニア部	青木 崇 ノースシャトル
	競技部	櫻井 翔子 ミナミクラブ
	競技部	中野 龍祐 ミナミクラブ
	ジュニア部	笠原 真理 笠懸ジュニア
	ジュニア部	高木 優季 笠懸ジュニア

※役員については、コロナ禍で2020年度は活動が少なく2021年度も継続となり、2022年度改選となりました。

久しぶりの全国大会

東小クラブ 松本俊一



令和4年6月17日から19日、富山県高岡市で開催された、第15回全国社会人クラブ個人戦に出場して来ました。出場種目は45歳以上シングルです。
新型コロナウイルスの影響を受けて、令和2年度、3年度と目標にしていた全ての全国大会、関東大会が中止となってしまい、ようやく今回3年ぶりの全国大会が開催され、出場する事が出来ました。
大会結果は
1回戦 松本 2-0 森 (京都)
2回戦 松本 0-2 車 (富山)
1回戦は危ない試合運びで勝利する事が出来ましたが、2回戦で前回大会40歳以上の部、優勝者の車さんに負けてしまいました。しかしながら試合の内容は、自分のペースで試合運びが出来た場面も多く、あと一步の所まで手を追いつめた感じがしたので自分の中では納得のいった試合だったと思います。最後は相手の実力が上だった為、勝ち切れてしまいました。
大会の中止が相次ぎ、体育館も利用制限がかかる等、先行きの見えない2年間、なんとかバドミントンのモチベーションを保つた為、自宅にエアロバイクを導入したり、体幹トレーニンググッズを購入したりして、いつ試合が開催されても良い体の状態を、出来る限り維持する様に努めてきました。今回の大会は、その結果が少し出せたのではないかと思います。
今年は11月に四国3県で開催される、第39回全国シニアバドミントン選手権大会に出場予定なので、練習やトレーニングを積み重ね、前回大会のベスト16という成績以上の結果をダブルス、シングルス共に残せる様、努力して行きたいと思っています。

編集後記

コロナ禍で多くの大会がなくなり、クラブの練習も何度か数ヶ月活動休止の期間を経て、やっと今年度(令和4年度)になって、大会も再開の運びとなりました。上記の結果に示したとおり、まだまだ参加者は例年の人数までは戻っていませんが、まずは、無事に開催できたことは良かったと思います。(今回は来月の「クラブ対抗戦」がありますので、このホームページ内の要項をご参照ください。)

